

2022年7月実施
第17回
農業簿記検定[®]
2級 問題

注意事項

トイレなど途中退出後の再入室は認めません。試験開始の合図の前までに済ませてください

- 1 試験監督員の指示があるまで、この問題冊子は開かないようにしてください。
- 2 試験中、下記の使用が認められたもの以外は、すべてカバン等にしまい、机の中又は、足元等指定された場所に置いてください。試験中、使用が認められるものは、次のとおりです。
・筆記具（BまたはHBの黒鉛筆/シャープペンシル）・消しゴム・定規・ラインマーカー
・電卓（基準に適合したものに限る。又は算盤）・時計（通信機能を有するものを除く）
- 3 スマートフォン等通信機器を使用することは認めません（時計の代わり又は電卓として使用も不可）。電源を切り、カバン等にしまってください。
- 4 試験監督員の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適切な試験の実施に支障を来たす行為を行った場合には、不正受験とみなすことがあります。
- 5 上掲4の場合を含み、不正受験と認められた場合には、直ちに退室を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、**2時間（120分）**です。試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 7 この問題冊子には、**問題25問まで掲載**しており、**1頁から26頁まで印刷**しています。
試験監督員の指示に従い、頁を調べ、印刷不鮮明や落丁等があれば、挙手をして申し出てください。
- 8 解答は、別途配布した解答用紙（マークシート）に記入（該当番号の塗りつぶし）してください。
- 9 問題の内容に関する質問には、一切応じません。
- 10 退室可能時間は、試験開始後30分後から試験終了10分前です。
※退出を希望する場合は、必ず挙手をして、試験監督員が解答用紙を確認し回収するまでは、席を立たないでください。一旦退出後の再入室は、認めません。
- 11 試験終了の合図とともに、直ちに、筆記具を置き、解答用紙を裏返してください。
- 12 試験監督員が解答用紙を回収し、受験番号や氏名等の記載内容を確認した後、退室可能を指示するまでは、席を立たないでください。
- 13 この問題冊子及び計算用紙は、持ち帰ることができます。解答用紙は、持ち帰れません。

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

監修 一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会

※“農業簿記検定[®]”は、一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会の登録商標です

問題 1

当社は当期において、次のような原価が発生している。農業簿記における製造原価、販売費、一般管理費に正しく分類した場合、以下の1～5のうち、製造原価、販売費、一般管理費の金額の組み合わせとして正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 収穫機械の燃料代 | 205,000 円 |
| 2. 果樹ハウスの暖房代 | 520,000 円 |
| 3. 通販サイトの年会費 | 30,000 円 |
| 4. 本社建物の減価償却費 | 37,000 円 |
| 5. 展示商談会への出展費用 | 65,000 円 |
| 6. 直売所レジのロール紙代 | 8,000 円 |
| 7. 総務職員の給料 | 850,000 円 |
| 8. 総務職員の通勤費 | 36,000 円 |
| 9. 販売員の営業出張旅費 | 70,000 円 |

【選択肢】

	製造原価	販売費	一般管理費
1	520,000 円	378,000 円	923,000 円
2	725,000 円	165,000 円	931,000 円
3	725,000 円	173,000 円	923,000 円
4	725,000 円	78,000 円	1,018,000 円
5	755,000 円	78,000 円	988,000 円

問題 2

当社では、継続記録法により材料の実際消費量を計算しており、毎月末に实地棚卸を行っている。また、消費価格は、予定消費価格@2,500円を採用している。以下の〔資料〕に基づいて、当月の①月末材料有高、②予定消費価格による材料費、③その場合の材料消費価格差異、について正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

1. 材料の消費量は継続記録法、実際消費単価の計算は先入先出法によっている。
2. 当月の材料の入出庫に関する資料は以下の通りである。
 - 4月5日 肥料 300 kg (@2,200円) を購入した。
 - 4月10日 肥料 200 kg (@2,600円) を購入した。
 - 4月16日 肥料 275 kg を消費した。
 - 4月21日 肥料 100 kg (@2,400円) を購入した。
 - 4月28日 肥料 250 kg を消費した。
3. 前月繰越は、@2,300円、100 kgであり、当月末の实地棚卸高の結果、棚卸減耗は存在しなかった。

【選択肢】

	①	②	③
1	437,500円	1,312,500円	97,500円(貸方差異)
2	435,000円	1,312,500円	97,500円(借方差異)
3	435,000円	1,292,500円	95,000円(貸方差異)
4	437,500円	1,292,500円	97,500円(貸方差異)
5	435,000円	1,312,500円	97,500円(貸方差異)

問題 4 **問題 3** のAファームでは、原価のより詳細な把握のため、製造間接費差異について、更に予算差異と稼働差異に分析している。**問題 3** の内容における、①予算差異、②稼働差異の金額、また、③に入る言葉について、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

$$\text{稼働差異} = (\text{実際作業面積等} - \text{計画作業面積等}) \times (\text{③})$$

【選択肢】

	①	②	③
1	120,000 円 (借方差異)	100,000 円 (借方差異)	予定配賦率
2	120,000 円 (借方差異)	75,000 円 (借方差異)	変動費率
3	195,000 円 (貸方差異)	25,000 円 (貸方差異)	固定費率
4	195,000 円 (借方差異)	25,000 円 (借方差異)	固定費率
5	120,000 円 (貸方差異)	100,000 円 (貸方差異)	予定配賦率

問題 5 当農園では、実際個別原価計算を行っている。以下の〔資料〕に基づいて、仕掛品勘定および製品勘定を作成し、空欄（①）～（④）に入る金額として正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

1. 各生産指示書に関するデータは、次のとおりである。

生産指示書	直接材料費	直接労務費	直接作業時間
青ネギ	210,000 円	135,000 円	150 時間
コマツナ	350,000 円	189,000 円	210 時間
ハウレンソウ	280,500 円	162,000 円	180 時間
ハクサイ	250,750 円	72,000 円	80 時間

2. 製造間接費は、直接作業時間当たり 600 円で各指示書に配賦している。

3. 期首仕掛品（青ネギ）は、350,000 円であった。

4. 期首製品（カボチャ）は、820,000 円であり、当期引渡済みである。

〔指示書別原価計算表〕（単位：円）

	青ネギ	コマツナ	ハウレンソウ	ハクサイ
期首仕掛品原価	350,000 円	—	—	—
直接材料費	()	()	()	()
直接労務費	()	()	()	()
製造間接費	()	()	()	()
合計	()	(①)	()	()
備考	収穫・引渡	収穫・引渡	収穫・未引渡	未収穫

〔勘定〕（単位：円）

仕掛品			
前期繰越	()	製 品	(②)
材 料	()	次期繰越	()
賃金手当	()		()
製造間接費	()		()
	()		()
製 品			
前期繰越	()	売上原価	(③)
仕掛品	()	次期繰越	(④)
	()		()

【選択肢】

	①	②	③	④
1	665,000	1,450,000	2,000,500	550,500
2	665,000	2,000,500	2,270,000	550,500
3	665,000	2,000,500	1,450,000	921,250
4	665,000	2,000,500	2,270,000	921,250
5	644,000	1,450,000	1,450,000	550,500

問題 6 大原畜産株式会社は素畜を肥育Ⅰ部門の始点で投入し、これを連続する2つの部門で加工し、単一の肉用牛を連続的に出荷している。以下の〔資料〕に基づき、①肥育Ⅰ部門の当期総飼育日数、②肥育Ⅰ部門の期末仕掛品原価の加工費、③肥育Ⅰ部門の完成品原価、肥育Ⅰ部門勘定の空欄（④）に入る値の、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

問題 7 また、**問題 6** と同じ、以下の〔資料〕に基づき、⑤肥育Ⅱ部門の当期総飼育日数、⑥肥育Ⅱ部門の期末仕掛品原価の肥育Ⅱ部門加工費、⑦肥育Ⅱ部門の完成品原価、肥育Ⅱ部門勘定の空欄（⑧）に入る値の、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

当社は累加法による工程別総合原価計算を行い、勘定記入を行なっている。なお、期末仕掛品の評価方法は先入先出法による。計算結果に端数が生じる場合には、円未満を四捨五入すること。金額は意図的に小さくしてある。

1. 当期の生産データ

	肥育Ⅰ部門	肥育Ⅱ部門
期首仕掛品量	60頭	120頭
当期投入量	420頭	360頭
計	480頭	480頭
期末仕掛品量	120頭	60頭
完成品量	360頭	420頭

1頭を出荷させるために要する飼育日数は肥育Ⅰ部門、肥育Ⅱ部門それぞれ180日である。各仕掛品の経過飼育日数は、肥育Ⅰ部門期首仕掛品が126日、肥育Ⅰ部門期末仕掛品が144日、肥育Ⅱ部門期首仕掛品が96日、肥育Ⅱ部門期末仕掛品が108日であった。

肥育Ⅰ部門期末仕掛品となった家畜の素畜費は81,000円であった。また、肥育Ⅱ部門期末仕掛品となった家畜の前工程費は74,910円であった。

2. 当期の原価データ

- (1) 肥育Ⅰ部門期首仕掛品原価：素畜費45,000円、肥育Ⅰ部門加工費30,240円
- (2) 肥育Ⅱ部門期首仕掛品原価：前工程費170,400円、肥育Ⅱ部門加工費57,600円
- (3) 当期製造費用：素畜費283,500円、肥育Ⅰ部門加工費223,560円、肥育Ⅱ部門加工費282,240円

	肥育Ⅰ部門		(単位：円)
前期繰越	75,240	肥育Ⅱ部門	(?)
素畜費	283,500	次期繰越	(④)
加工費	223,560		

肥 育 II 部 門 (単位：円)

前期繰越	228,000	製 品 (?)	
肥育 I 部門	(?)	次期繰越	(⑧)
加工費	282,240		

【 問題 6 選択肢 】

	①	②	③	④
1	82,080 日	53,432 円	437,400 円	132,840
2	74,520 日	51,840 円	449,460 円	132,840
3	74,520 日	53,432 円	507,060 円	51,840
4	74,520 日	51,840 円	437,400 円	132,840
5	82,080 日	53,432 円	449,460 円	81,000

【 問題 7 選択肢 】

	⑤	⑥	⑦	⑧
1	82,080 日	26,829 円	847,350 円	74,910
2	70,560 日	25,920 円	858,870 円	100,830
3	82,080 日	26,829 円	883,934 円	74,910
4	75,600 日	32,400 円	847,350 円	100,830
5	70,560 日	25,920 円	858,870 円	74,910

問題 8

当社はシャインマスカットを栽培する果樹農家である。以下の〔資料〕に基づき、①損益分岐点変動益と②希望営業利益達成変動益の金額を算定し、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。なお、希望営業利益は 2,700,000 円とし、〔資料〕以外の条件は不変として、問題の〔資料〕以外の事項は考慮しないこととする。

〔資料〕

シャインマスカット 1 房当たりの販売価格	@2,500 円
シャインマスカット 1 房当たりの変動費	@1,300 円
固定費	1,800,000 円

【選択肢】

	損益分岐点変動益	希望営業利益達成変動益
1	3,750,000 円	9,375,000 円
2	3,461,538 円	6,161,538 円
3	3,750,000 円	6,450,000 円
4	3,461,538 円	8,653,846 円
5	3,750,000 円	8,250,000 円

問題 9

次の〔資料〕に基づき、勘定科目精査法によって原価分解を実施した場合の10a 当り変動費率と固定費額を計算し、その組み合わせとして正しい番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

1. 当農園の種苗費は作付面積に比例して増減する原価であることが認識された。当期の肥料費は1,800,000 円であった。
2. 当農園の肥料費は作付面積に比例して増減する原価であることが認識された。当期の肥料費は1,200,000 円であった。
3. 当農園の作業員に対する労務費は正社員に対して固定的に支払う給与と、作付面積に比例して増減するパート職員の給与に分類される原価であることが認識された。当期の労務費は2,700,000 円であり、そのうち正社員に対するものは1,800,000 円であった。
4. 農業機械減価償却費は年間1,200,000 円である。この農業機械減価償却費は作付面積に関係なく每期一定額発生する原価である。
5. 電力料は、基本使用料金と作付面積に応じて変動する原価に分類されることになる。当期の電力量総額は900,000 円であり、そのうち年間基本使用料は300,000 円であった。
6. 農具費は年間300,000 円発生するものであり、作付面積に関係なく每期一定額発生するものである。
7. 当期の作付面積は300a であった。

【選択肢】

	変動費率 (円/10a)	固定費額 (円)
1	150,000 円	3,300,000 円
2	260,000 円	1,500,000 円
3	200,000 円	3,300,000 円
4	150,000 円	3,600,000 円
5	200,000 円	3,600,000 円

問題 10

次の入金伝票、出金伝票、振替伝票から各勘定口座へ転記した場合の①～③に当てはまる金額として、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

入金伝票	No.121
XX年4月10日	
製品売上高	300,000

振替伝票	No.333
XX年4月5日	
諸材料費	120,000
買掛金	120,000

出金伝票	No.232
XX年4月25日	
諸材料費	20,000

振替伝票	No.334
XX年4月20日	
機械装置	1,500,000
未払金	1,500,000

現金

1

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
4/1	前月繰越	✓	250,000		借	250,000
	10	入金伝票	121	300,000	〃	550,000
	25	出金伝票	232	(各自推定)	〃	(①)

機械装置

12

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
4/20	振替伝票	334	(各自推定)		借	(各自推定)

買掛金

22

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
4/1	前月繰越	✓		150,000	貸	150,000
4/5	振替伝票	333		(各自推定)	〃	(各自推定)

未払金

24

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
4/20	振替伝票	334		(各自推定)	貸	(②)

製品売上高

41

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
4/10	入金伝票	121		(各自推定)	貸	(各自推定)

日付		摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
4	5	振替伝票	333	120,000		借	120,000
	25	出金伝票	232	(各自推定)		〃	(③)

【選択肢】

1. ① 530,000 ② 150,000 ③ 140,000
2. ① 530,000 ② 1,500,000 ③ 100,000
3. ① 530,000 ② 1,500,000 ③ 140,000
4. ① 570,000 ② 150,000 ③ 100,000
5. ① 570,000 ② 1,500,000 ③ 140,000

問題 11

甲株式会社は、年1回12月末決算の法人である。同社の以下の取引に関する仕訳の結果、保険差益勘定に計上される金額として、正しい番号を一つ選びなさい。

1. X2年2月28日に火災が発生し、直売所が全焼した。この直売所に関しては、保険会社と火災保険契約6,000,000円を結んでいたため、ただちに保険金の支払いを請求した。
同直売所の取得原価は6,000,000円、期首減価償却累計額は3,600,000円、当期の同日までの減価償却費は50,000円、記帳方法は間接法によっている。
2. X2年5月20日に、保険会社から、査定の結果、直売所全焼につき2,500,000円の保険金を支払う旨の通知があった。
3. X2年9月30日に水害が発生し、農具庫が流出した。この農具庫に関しては、保険会社と火災保険契約の水害特約1,000,000円を結んでいたため、ただちに保険金の支払いを請求した。
同農具庫の取得原価は1,000,000円、期首減価償却累計額は469,000円、当期の同日までの減価償却費は50,250円、記帳方法は間接法によっている。
4. X2年12月10日に、保険会社から、査定の結果、農具庫流出につき400,000円の保険金を支払う旨の通知があった。

【選択肢】

1. 80,750
2. 100,000
3. 150,000
4. 180,750
5. 1,068,750

問題 12

有形固定資産の減価償却に関する次のア～オの記述には、誤っているものが二つある。その誤っている記述の記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

- ア 定率法の減価償却費の計算方法として、対象資産の取得時期により適用する償却率が異なり、定率法、250%定率法、200%定率法がある。
- イ 定額法とは、取得価額から減価償却累計額を控除した金額に償却率を乗じて減価償却費を計算する方法である。
- ウ 定額法により計算した場合、減価償却費は每期一定の金額となる。
- エ 農業用トラクターは減価償却を行うが、乳牛は生物であり、減価償却は行わない。
- オ 有形固定資産を期中において取得した場合、減価償却費の計算は、業務用の使用を開始した日からの月割計算となる。

【選択肢】

1. ア・エ 2. イ・エ 3. イ・ウ 4. ア・オ 5. ウ・オ

問題 13

次の所有権移転外ファイナンス・リース取引に関する資料に基づいて、借手におけるリース債務の返済スケジュール表のうち①～③の金額として正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。
 なお、計算上生じる端数は円未満を四捨五入し、過不足は最終年度の利息で調整すること。(決算年1回、決算日4月30日)

1. 所有権移転条項：なし
2. 解約不能のリース期間：5年
3. リース取引開始日：X1年5月1日
4. リース料：月額22,000円（各年度末に1年分を現金で支払う） 総額1,320,000円
5. 貸手の購入価額：1,200,000円（借手においても明らかである）
6. 貸手の計算利率：3.2635%（借手においても明らかである）
7. リース物件（備品）の経済的耐用年数：6年

リース債務の返済スケジュール

(単位：円)

支払日	期首元本	支払額			期末元本
		元本償還額	利息相当額	合計額	
X2年4月30日	(①)	()	()	()	(②)
X3年4月30日	()	()	()	()	()
X4年4月30日	()	()	()	()	()
X5年4月30日	()	()	()	()	(③)
X6年4月30日	()	()	()	()	—
合計	—	()	()	()	—

【選択肢】

- | | | |
|----------------|-------------|-----------|
| 1. ① 1,200,000 | ② 960,000 | ③ 240,000 |
| 2. ① 1,200,000 | ② 975,162 | ③ 255,656 |
| 3. ① 1,320,000 | ② 960,000 | ③ 240,000 |
| 4. ① 1,320,000 | ② 975,162 | ③ 255,656 |
| 5. ① 1,320,000 | ② 1,099,078 | ③ 392,104 |

問題 14

農業法人が、次の①～⑤の交付金等を受領した場合の貸方科目として、正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

- ① 固定資産を取得するための国からの補助金
- ② 農畜産物の価格補填金
- ③ 水田における転作作物の栽培を支援するための交付金
- ④ 配合飼料価格差補填金
- ⑤ 過年度減収分の補填金

【選択肢】

- | | | | |
|----|---------------------|----------------------|---------|
| 1. | ①国庫補助金収入
④価格補填収入 | ②経営安定補填収入
⑤雑収入 | ③一般助成収入 |
| 2. | ①国庫補助金収入
④飼料費 | ②価格補填収入
⑤経営安定補填収入 | ③一般助成収入 |
| 3. | ①国庫補助金収入
④価格補填収入 | ②経営安定補填収入
⑤雑収入 | ③作付助成収入 |
| 4. | ①資産受贈益
④価格補填収入 | ②経営安定補填収入
⑤雑収入 | ③一般助成収入 |
| 5. | ①国庫補助金収入
④飼料費 | ②価格補填収入
⑤経営安定補填収入 | ③作付助成収入 |

問題 15

アグリ農事組合法人（決算年1回 12月31日）は、X2年度及びX3年度の決算について、X3年2月24日及びX4年2月23日の総会の決議により〔資料〕のとおり剰余金の処分が承認された。

〔資料〕に基づき、農業経営基盤強化準備金の繰り入れ、取り崩し、並びに圧縮記帳について、下記の〔仕訳〕の①～③に当てはまる〔勘定科目、金額〕の正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

なお、農業経営基盤強化準備金の繰り入れ及び取り崩しは、剰余金処分経理方式によるものとし、圧縮記帳は積立金方式によるものとする。また、〔勘定科目、金額〕は同じものを何度使用してもよい。

〔資料〕 剰余金処分計算書（抜粋）

（単位：円）

項目	X2年度	X3年度
1 繰越利益剰余金	12,830,000	14,060,800
2 任意積立金取崩額 （農業経営基盤強化準備金）	— (—)	8,000,000 (8,000,000)
3 剰余金処分数額	考慮不要	考慮不要
（1）利益準備金	考慮不要	考慮不要
（2）任意積立金 （農業経営基盤強化準備金） （圧縮積立金）	6,000,000 (6,000,000) (—)	1,200,000 (—) (1,200,000)

〔仕訳〕

X3年2月24日	(借) (①)	6,000,000	(貸) 農業経営基盤強化準備金	6,000,000
X3年5月15日	(借) 機 械 装 置	3,600,000	(貸) 普 通 預 金	3,600,000
X4年2月23日	(借) (②)	(③)	(貸) 圧 縮 積 立 金	(③)
	(借) 農業経営基盤強化準備金	8,000,000	(貸) (各自推定)	8,000,000

〔勘定科目、金額〕

ア 繰越利益剰余金	イ 農業経営基盤強化準備金繰入額	ウ 固定資産圧縮損
エ 3,600,000	オ 1,200,000	

【選択肢】

- | | | |
|--------|-----|-----|
| 1. ① ア | ② ア | ③ エ |
| 2. ① ア | ② ア | ③ オ |
| 3. ① イ | ② ア | ③ オ |
| 4. ① イ | ② ウ | ③ エ |
| 5. ① イ | ② ウ | ③ オ |

問題 16

次の資料をもとに、決算において当期の法人税等が確定した時の仕訳として正しいものの番号を一つ選びなさい。

法人税等の中間納付額	900,000 円				
法人税等の年税額	2,230,000 円				
中間納付時の仕訳					
(借)	仮払法人税等	900,000	(貸)	普通預金	900,000

【選択肢】

- | | | | | | | |
|----|-----|--------|-----------|-----|------------------|----------------------|
| 1. | (借) | 仮払法人税等 | 900,000 | (貸) | 未払法人税等 | 900,000 |
| 2. | (借) | 法人税等 | 900,000 | (貸) | 未払法人税等 | 900,000 |
| 3. | (借) | 法人税等 | 2,230,000 | (貸) | 仮払法人税等
未払法人税等 | 900,000
1,330,000 |
| 4. | (借) | 未払法人税等 | 900,000 | (貸) | 普通預金 | 900,000 |
| 5. | (借) | 仮払法人税等 | 2,230,000 | (貸) | 未払法人税等 | 2,230,000 |

問題 17

収入保険に関する次のA～Eの記述には、誤っているものが二つある。その誤っている記述の記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

- A 収入保険の保険金及び国庫補助相当分の特約補填金にかかる収入額については、経営安定補填収入勘定で処理する。
- B 収入保険の保険料等の支払額については、保険料は共済掛金勘定、積立金は経営保険積立金勘定で処理する。
- C X1年の収入が基準収入に対して一定水準以上の減収となり、X2年において保険金等を請求し、X2年に受領した。この場合、受領した保険金等にかかる収入は、X2年の収益として計上する。
- D 収入保険にかかる補填を受けた場合には、経営保険積立金の払戻金は経営保険積立金勘定を用いて処理する。
- E 保険金等の請求手続をした時点で、(借方)未収入金 (貸方)未決算 の仕訳を計上するのが原則であるが、当該仕訳の計上を省略し、入金時に未決算勘定を相手勘定として会計処理する方法もある。

【選択肢】

1. A C 2. A E 3. B C 4. B E 5. C D

問題 18～25

畜産業を営むX株式会社のX2年4月1日からX3年3月31日事業年度に関する、次の〔資料1〕及び〔資料2〕に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、原価計算制度は採用していない。

〔資料1〕 決算整理前残高試算表

200,000	現金	
39,435,241	普通預金	
20,881,012	売掛金	
3,145,692	原材料	
48,259,635	仕掛品	
16,912,145	建物	
27,476,500	機械装置	
5,131,200	生物	
	買掛金	24,456,789
	長期借入金	40,933,111
	退職給付引当金	9,000,000
	資本金	8,000,000
	繰越利益剰余金	27,680,211
	製品売上高	180,002,345
198,110	種苗費	
14,241,293	素畜費	
83,497,418	飼料費	
7,150,035	貸金手当	
2,147,845	動力光熱費	
7,200,000	役員報酬	
15,664,545	販売手数料	
	受取利息	2,330
	国庫補助金収入	1,800,000
	固定資産売却益	380,000
714,115	支払利息	
292,254,786		292,254,786

〔資料2〕決算整理事項

- (1) 原材料の期首棚卸高は、3,145,692円であり、期末棚卸高は、4,021,413円であった。
- (2) 仕掛品の期首棚卸高は、48,259,635円であり、期末棚卸高は、44,085,015円であった。
- (3) 今期において、機械装置を取得するための国庫補助金1,800,000円を受領し、当該補助金を充当して、X2年10月に機械装置Aを3,600,000円で購入し、直ちに事業の用に供した（購入価額で機械装置勘定へ計上済）。当該機械装置Aについて、直接減額方式により、圧縮記帳を行う。なお、機械装置Aの耐用年数は7年であり、定率法（償却率0.286）により減価償却費を計上する（記帳方法は直接法）。
- (4) 今期において新規に取得した機械装置は上記（3）の機械装置Aのみである。また、今期において除却または売却した機械装置はない。機械装置A以外の機械装置の耐用年数も7年であり、定率法（償却率0.286）により減価償却費を計算し、直接法により計上する。
- (5) 固定資産売却益380,000円は繁殖牛の売却による利益である。繁殖牛の売却は每期継続して行われているため、総額主義による会計処理方法へ修正を行う。なお、売却した繁殖牛に係る情報は以下の通りである。

繁殖牛の売却収入	1,600,000円
期首時点における当該繁殖牛の帳簿価額	1,220,000円
当該繁殖牛の売却時までの減価償却費相当額（未計上）	180,000円

- (6) 当期に計上すべき減価償却費は、以下の通りである（すべて製造に関する費用である）。

固定資産	当期償却額
建物	914,332円
機械装置A（上記（3））	（ ア ）
その他の機械装置	（ イ ）
今期に売却した繁殖牛（上記（5））	180,000円
その他の繁殖牛	595,212円
合 計	（ 推定 ）

- (7) 決算において、退職給付引当金493,200円を繰り入れる。なお、繰入額はすべて営業費用である。
- (8) 決算において、法人税等の年税額が12,270,300円と確定した。

問題 18 上掲の〔資料2〕決算整理事項(6)の空欄(ア)と(イ)を計算し、下記のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- 1. (ア) 257,400 (イ) 7,858,279
- 2. (ア) 1,029,600 (イ) 6,828,679
- 3. (ア) 514,800 (イ) 7,858,279
- 4. (ア) 514,800 (イ) 6,828,679
- 5. (ア) 257,400 (イ) 6,828,679

製造原価報告書

(単位:円)

I 材料費		
期首材料棚卸高	()	
種 苗 費	()	
素 畜 費	()	
飼 料 費	()	
計	()	
期末材料棚卸高	()	(ウ)
II 労務費		
賃 金 手 当		()
III 経 費		
動 力 光 熱 費	()	
()	()	()
当期総製造費用		()
期首仕掛品棚卸高		()
計		()
期末仕掛品棚卸高		()
当期製品製造原価		(工)

問題 19 上掲の製造原価報告書の空欄（ウ）と（エ）を計算し、下記のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- 1. (ウ) 97,061,100 (エ) 110,533,600
- 2. (ウ) 97,061,100 (エ) 119,309,223
- 3. (ウ) 105,103,926 (エ) 110,533,600
- 4. (ウ) 105,103,926 (エ) 119,309,223
- 5. (ウ) 97,061,100 (エ) 207,479,253

損益計算書

X株式会社	自 X2年4月1日 至 X3年3月31日	(単位：円)
I 売上高		
1. 製品売上高	()	
2. 生物売却収入	(才)	()
II 売上原価		
1. 当期製品製造原価	()	
2. (力)	(キ)	()
売上総利益		()
III 販売費及び一般管理費		
1. 役員報酬	()	
2. 販売手数料	()	
3. 退職給付費用	()	()
営業利益		()
IV 営業外収益		
1. 受取利息		()
V 営業外費用		
1. 支払利息		()
経常利益		()
VI 特別利益		
1. 国庫補助金収入		()
VII 特別損失		
1. (ク)		(ケ)
税引前当期純利益		()
(コ)		()
当期純利益		(サ)

問題 20 上掲の損益計算書の空欄（オ）と（キ）を計算し、下記のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (オ) 1,600,000 (力) 生物売却原価 (キ) 1,220,000
2. (オ) 380,000 (力) 生物製造原価 (キ) 1,220,000
3. (オ) 1,600,000 (力) 生物製造原価 (キ) 1,040,000
4. (オ) 1,600,000 (力) 生物売却原価 (キ) 1,040,000
5. (オ) 380,000 (力) 生物売却原価 (キ) 1,040,000

問題 21 上掲の損益計算書の空欄（ケ）を計算し、下記のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (ク) 固定資産売却損 (ケ) 1,800,000
2. (ク) 固定資産圧縮損 (ケ) 3,600,000
3. (ク) 固定資産除却損 (ケ) 1,800,000
4. (ク) 固定資産圧縮損 (ケ) 1,800,000
5. (ク) 固定資産売却損 (ケ) 3,600,000

問題 22 上掲の損益計算書の空欄（サ）を計算し、下記のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (コ) 租税公課 (サ) 24,913,292
2. (コ) 法人税等 (サ) 37,183,592
3. (コ) 法人税等 (サ) 24,913,292
4. (コ) 租税公課 (サ) 37,183,592
5. (コ) 法人税等 (サ) 26,713,292

問題 23 次掲の貸借対照表の空欄（シ）と（ス）を計算し、下記のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (シ) 18,590,421 (ス) 4,535,988
2. (シ) 20,390,421 (ス) 4,535,988
3. (シ) 20,472,921 (ス) 4,535,988
4. (シ) 16,790,421 (ス) 3,315,988
5. (シ) 18,590,421 (ス) 3,315,988

問題 24 次掲の貸借対照表の空欄（セ）と（ソ）を計算し、下記のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (セ) 8,000,000 (ソ) 9,493,200
2. (セ) 12,270,300 (ソ) 9,000,000
3. (セ) 12,270,300 (ソ) 9,493,200
4. (セ) 12,270,300 (ソ) 1,800,000
5. (セ) 8,000,000 (ソ) 9,000,000

問題 25 次掲の貸借対照表の空欄（タ）を計算し、下記のうちから、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 24,913,292
2. 27,680,211
3. 37,183,592
4. 37,895,377
5. 52,593,503

貸 借 対 照 表

X株式会社

X3年3月31日

(単位：円)

資産の部		負債の部	
I 流動資産		I 流動負債	
現金預金	()	買掛金	()
売掛金	()	未払法人税等	(セ)
原材料	()	流動負債合計	()
仕掛品	()	II 固定負債	
流動資産合計	()	長期借入金	()
II 固定資産		退職給付引当金	(ソ)
1. 有形固定資産		固定負債合計	()
建物	()	負債合計	()
機械装置	(シ)	純資産の部	
生 物	(ス)	I 株主資本	
有形固定資産合計	()	資 本 金	8,000,000
固定資産合計	()	利益剰余金	
/		その他利益剰余金	
/		繰越利益剰余金	(タ)
/		利益剰余金合計	()
/		純 資 産 合 計	()
資 産 合 計	()	負債・純資産合計	()